

ももとせ

第428号

30年度5月

中野区立桃園小学校

「道徳教育と外国語活動」

副校長 井上 江見子

ツツジが咲き風薫る季節になりました。例年より早い開花です。自転車通勤の私は、ゴールデンウィーク前から新緑の季節を感じ、得をした気分です。過ごすことができました。

「1年生を迎える会」を終えた1年生。6年生が中休みにペアとなり、手をつないで校庭に出て1年生に合わせて遊んでいました。教室に戻る時もしっかりと手をつなぎ、関わりを深めています。6年生の表情が実に温かく、教室まで1年生を送っている姿を微笑ましく感じました。本校の教育目標「思いやりのある子」に育つ1つの場面です。異年齢間でのコミュニケーションは心を育てます。1年生にとっては、6年生と触れ合うだけでなく、学校の遊びのきまりを教えてもらえる機会にもなります。集団の一員として学校生活を送ることを学び、成長を願います。

さて、今年度は新学習指導要領の移行期間1年目になります。2年後の東京オリンピック・パラリンピックの年に小学校は全面実施です。「人工知能が進化して人間が活躍できる職業が無くなるのではないか。」「今、学校で教えていることは、時代の変化に伴い通用しなくなるのではないか。」新学習指導要領は、2030年までの10年間、予測困難な時代を生きる子供たちに必要な資質・能力を育てる学校教育の実現を目指しています。

道徳が教科化されました。「特別の教科 道徳」として教科書を使用します。道徳は十分考えさせたり、話し合わせたりできなかったところがありました。しかし「特別の教科」化は、多様な価値観と向き合って道徳としての問題を考え続ける姿勢を道徳教育で養うべきだという認識に立っています。答えが一つでない道徳的な課題について、自分自身の問題として捉えることをねらいとしています。最終的に道徳的実践力を養っていきます。

道徳的実践力とは、人間としてよりよく生きていく力、将来突き当たるであろう様々な状況、場面においても適切な行為を主体的に選択し、実践することができる力です。予測困難な時代を生きる子供たちに必要な力となるものだと考えます。

外国語活動は、3、4年生が今年度も年間20時間の実施となります。5、6年生は外国語としてこれまでの35時間から50時間に増えます。ALTの配置は昨年度同様、3、4年生が20時間、5、6年生が30時間になります。英語の音声による慣れについては、これまでの外国語活動を通じて確実に培われています。外国語による聞くこと、話すことに加え、読むこと、書くことの言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を養うことを目標にしています。本校では今年度も「コミュニケーションを楽しむ外国語活動の授業づくり」に取り組んで参ります。

これからの時代を生き抜く力を保護者の方、地域の方と共に連携し育てていきたいものです。

【緊急時の引き渡し訓練】

児童が在校時に大規模地震（中野区では震度5強以上）が発生した場合、校舎に甚大な被害がなく、児童の安全が確保される場合、校舎または校庭において保護者等の引き取りを待ちます。保護者による引き取りが困難な場合、予め届けのある第三者による引き渡しを行います。

今年度は小中連携教育として引き渡し訓練を行います。兄弟のいる保護者の方は本校での児童引き取り後に第二中の引き取りにご参加ください。

※5月12日(土)の引き渡し訓練にご参加をお願いします。前日11日(金)に学校配信システムの配信をします。未登録の方、前回届かなかつた方は、ご登録をよろしくお願いいたします。

<災害伝言ダイヤル>

避難状況等の情報は「災害伝言ダイヤル」等を利用して伝え、電話による問い合わせは、ご遠慮ください。

今月のめあて

【生活】 時間を守ろう

【保健】 体を清潔にしよう

【給食】 準備や片付けをきちんとしよう

【安全】 正しく遊具を使おう

